

せんだい普及センターだより

# BLOSSOM

Vol.84

令和5年11月14日発行

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320(地域農業班)

022-275-8410(先進技術第一班)

022-275-8374(先進技術第二班)

FAX 022-275-0296(共通)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/> →



## 利用が広がるスマート農業技術 ～RTKシステム本格始動！～

写真：自動運転によるえだまめ播種

県では担い手減少と高齢化が進む中、地域農業を維持発展させることを目標に農業分野におけるICT技術（情報通信技術）等の先端技術を活用した「スマート農業」技術を経営に導入し、生産性の向上や作業の省力・効率化等に取り組む経営体を支援しています。

その一環として衛星測位システムの一つであるRTK\*の基地局が県内7か所に整備され、今年度から本格的な運用が始まりました。管内でもRTKによって高精度の自動走行を可能としたトラクターや田植え機等の利用が広がっており、6月にはえだまめの耕起～播種～除草剤散布を自動運転で実施する実演会が管内で開催され、大きな注目を集めました。実際の利用者からも作業の負担が軽減されて助かっているなど、好評を博しています。

RTKシステムの利用申込は下記ホームページをご覧ください。普及センターまでお問い合わせください。

\*RTK（Real Time Kinematic）とは、衛星から送られる測位情報を基地局で誤差の補正をすることで、高精度の位置計測を実現したシステム。これにより誤差数cmという精度での機械作業が可能となる。

宮城県公式ホームページ「『宮城県RTKシステム』利用申込案内について」  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/rtk-system.html>



# 令和5年度プロジェクト課題 - 中間実績 -

## No.1 農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

本プロジェクト課題で支援している(農)あきう生産組合では、主力品目である水稲、大豆、そばに加え、課題を開始した令和3年度から新規園芸品目としてそらまめ、ブロッコリーなどの栽培にも取り組んでいます。今年のそらまめは、病害虫防除や肥培管理を適期に行うことで昨年と比較しておおよそ倍の量を収穫す



そらまめ収穫の様子

ることができ、着々と栽培技術が向上しています。大豆では今年から播種量を増やしており、全体的に良好な生育を保っています。また、播種前の碎土有無による収穫量への影響を比較するための試験ほ場を設けており、今後も調査等を行い年度末に実施する実績検討会で情報提供する予定です。



秋保地区の大豆ほ場

## No.2 土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着

大郷町の前川地区では、今年約6haのえだまめが作付けされ、8月から10月にかけて、順次収穫が行われました。昨年は7月の大雨で収穫が皆無となったほ場もありましたが、生産者の栽培技術も向上してきたことから、早生種及び中生種の生育は順調に進み、概ね期待した収量となりました。一方、夏の猛暑や長引いた残暑の影響からか、特に晩生種では虫害が目立つなどの状況が見受けられました。



RTKを活用した機械収穫

昨年の課題であった法人間の収穫時期の重なりを回避するため、(有)薬師農産では早生品種（初だるま、湯あがり娘）の作付けに取り組み、収穫の前進化を試みました。これに伴い、普及センターでは品種比較検討調査ほを設置して、これらの品種の生育状況を観察してきました。調査結果については、地域のえだまめ生産法人と振り返り検討会で共有し、来年の作付けスケジュールや品種構成の検討材料とする予定です。



収穫調査の様子

## No.3 次代を担う生産者の育成による梨産地活性化

今年度から始まったこのプロジェクト活動は、歴史ある利府梨の生産を盛り上げ、若手生産者の活動を支援するために立ち上げました。普及センターでは、技術情報の発信や、定期的な巡回の他、新しい技術の実証導入を支援しています。また、生産者同士や他産地との交流等も図り、人材づくりも支援



若手生産者への病害対策指導

してまいります。さらにこの活動で支援してきた産地協議会が10月に設立され、このことにより補助事業を活用できる体制づくりを行ってきました。今後とも利府梨の生産振興のため、生産者の要望やご意見を伺いながら支援してまいります。



現地検討会の様子

## No.4 水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上

乾田直播栽培で移植栽培並みの収量を上げることが目標に、昨年度から技術定着の支援を行っています。

8月には月1回開催している勉強会の一環として、乾田直播栽培の先進地である石巻市の(農)たてファーム・和へ視察に行きました。現地では使用農

機や栽培管理についての説明があり、その後取組者同士の情報交換が行われました。減肥に向けた試験的な取組みや、種子粉衣による病害虫の予防防除等を知ることができ、実りある時間となったようです。

今後は1月中旬に総合検討会を開催し、今作の振り返りと次期作に向けた支援を行う予定です。



石巻市での勉強会の様子  
(左:ほ場での説明 右:情報交換の様子)

## トピックス～普及センターブログより～

### 先進農家体験学習修了式が行われました！

宮城県農業大学の先進農業体験学習終了式が、令和5年10月6日(金)、宮城県仙台合同庁舎の会議室で開催されました。

この先進農業体験学習は、農業大学の1年生が、先進的農業経営者のもとで33日間、農業の全般を学ぶカリキュラムです。今年は各学部から合計10人が、管内10ヵ所の農場で研修に励みました。

参加した学生からは「学びたいと思っていた以上のことを学ぶことができた」「これから農業に携わるうえで貴重なことを学んだ」と意欲的な声が聞かれました。また、受入れ農家側からは、「今年は暑くて

大変だったと思うがよく頑張ってくれた」「何でもやってみようという姿勢が良かった」と温かな声が聞かれました。



### 松島で交通社会実験が行われました！

10月14日及び15日に、松島町で道路を歩行者に開放する交通社会実験が昨年に引き続き行われました。今年は道路空間(通行規制区間)に加え、新たに中央広場とグリーン広場にイベント会場が設けられ、観光地「松島」全体で賑わいを創出する空間が作られました。

グリーン広場では地場産品を販売するブースが設置され、管内の法人は「(有)サンフレッシュ松島」と「(有)F・F磯崎」が出店しました。「(有)サンフレッシュ松島」は自社で生産したトマトや加工品のトマトジュース、トマトかき氷など、「(有)F・F磯崎」は蒸しガキや焼きホタテなどを販売し、松島を訪れた観光客は足を止めて地元の商品やグルメを買って求めています。

さらに1日目の夜には花火が打ち上げられ、賑やかな1日の最後に花を添えていました。



# 🍁🍌 仙台農業改良普及センターからのお知らせ 🍌🍁

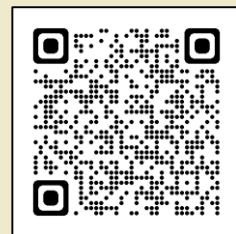
## なし及びりんごなどの生産者の皆様へ 火傷病（かしょうびょう）について

火傷病は、*Erwinia amylovora* という細菌（火傷病菌）による植物の病気で、リンゴ属、ナシ属、サンザシ属、ナナカマド属、かりん、びわ等に感染します。

感染すると、火にあぶられたような症状を示し、病斑が幹を取り巻くことにより樹全体が枯れることもあります。国内ではまだ未発生ですが、火傷病を根絶できる有効な防除方法は確立されていないため、万一感染が確認された場合には植物防疫法に基づき、伐採などを行う必要があります。詳しくは、右記QRコードの農林水産省HPをご確認ください。県内では、9月から花粉の流通や園地調査を行っております。



農林水産省消費・安全局HP  
「火傷病のまん延を防ぐために」



農林水産省からのお知らせ

## 野菜生産者の皆様へ トマトキバガの発生に注意してください

今年7月、トマトキバガ（*Tuta absoluta* (Meyrick)）が県内の侵入調査用フェロモントラップで初確認されました。トマトキバガは翅を広げたときの大きさが約10mmの小型のガで、トマトやナス、ばれいしょ等のナス科作物や、いんげんまめ等に寄生することが知られています。卵は葉の裏面などに産み付けられ、幼虫は茎葉や果実の内部に潜り込んで食害し、果実品質の低下など大きな被害をもたらします。防除は薬剤散布が主となりますが、農薬などの詳細は病害虫防除所の特殊報をご参照ください。また、本虫の発生が疑われた場合は、速やかに病害虫防除所か農業改良普及センターにご連絡ください。



黒色横帯

上: トマトキバガ成虫  
下: トマトキバガ幼虫  
※写真提供: 横浜植物防疫所  
※禁転載



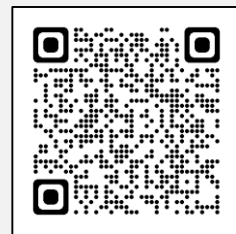
病害虫防除所特殊報第1号  
「トマトキバガの初確認について」

## 「資材価格高騰等に伴う営農相談窓口」の設置について

近年の世界情勢の変化により、肥料を含む各種資材の高騰が続いており、本県の農家経営に対して影響が広がりつつあることから、各地方振興事務所農業振興部に「資材価格高騰等に伴う営農相談窓口」を設置しています。

相談窓口では、資材価格高騰等による営農継続などに対して不安を持つ農業者の方からの相談に対し、制度資金の案内や、相談される農業者の所得確保に向けた生産コスト低減技術などについて指導・助言を行います。

生産コストを縮減し経営の安定化を図っていくには、経費削減・収量向上・単価向上等の視点から対策を取ることが大切です。生産コスト縮減対策、土づくり・肥料低減対策、農薬低減対策、機械・作業対策などの資材価格高騰等に係る技術対策の詳細については、右記QRコードから御確認ください。資材価格高騰等に伴う営農継続に対する不安や困りごとがあれば、お気軽に御相談ください。



資材価格高騰等に係る技術対策

お問合せ：仙台地方振興事務所農業振興部 TEL：022-275-9250